

◆ 主題名 (生徒に提示するもの)	「自然を守れ」とは言うけれど・・・
-----------------------------	--------------------------

内容項目	見出し	教材名
D - 20	自然愛護	「川端」のある暮らし
価値項目		
1・ 2 ・3・4		
進んで自然の愛護に努める		
本時のねらい		
我々が自然の中で生かされていることを自覚し、できる範囲で自然愛護に努める態度を育てる。		

主題発問に向かうための導入・場面発問	
導入	発問 「自然(環境)」と聞いて思い浮かべるものは？
	補助発問
場面①	発問 針江の住民は、どうして「水」を大切にしてきたのだろうか。 (動画視聴:「針江生水の郷」4K 9分41秒・・・水車の場面:5分後まで)
	補助発問 針江の人々が湧き水を作っているのか。
場面②	発問 委員会の活動を通して、地元の人々にどのような変化が起こっただろうか。
	補助発問 針江地区の住民が気付いた、「故郷のこと・故郷の良さ」とは何だろう。(※留意点)
場面③	発問
	補助発問

◆ 主題発問	「水も宝なら、ここで暮らす人たちも宝である」という言葉には、どんな思いが込められているのだろうか。 ※技術が発達した現在でも、針江の住民が「川端」を使い続けるのはなぜだろう。
---------------	---

◆ 学び合い活動	場面発問①	場面発問②	場面発問③	主題発問
	個 ⇨ (ペア ・ グループ ・ フリー) ⇨ 個			

留意点等	<p>地球のため、人類のため、未来のために「自然を守れ」と長く言われる。長く言われるが、その不慮な考えに一石を投じてみよう。人間が地球を支配し、環境を破壊し、あらゆる生命の存続を脅かしていることは事実である。だからこそ、「守らねば」という上から目線の使命感を抱くのは当然かもしれない。しかし、我々は支配者でありながら、その自然環境の中に生まれ落ちた一つの生命体ではない。「守る」対象は、そもそも我々が壊してきたものに過ぎない。人間は、この自然の中で生かされる存在であることを謙虚に受け入れる必要がある。だからこそ、生活の利便性を追求しながら自然を壊さずに生きる知恵をもち続けなければならない。幸い、先人たちはその知恵を脈々と受け継いできた。現代に生きる我々も、それを見習うべきである。</p> <p>※針江生水の郷委員会の活動内容から、生徒の思考が「郷土愛」に向かないよう注意する。彼らは、郷土や環境を守るのではなく、昔からの知恵を受け継いで豊かな水のある暮らしを未来につなごうとしていると捉えさせたい。</p>
-------------	--

授業後の振り返り	<p>前年度の留意点、構想シートに沿って授業を行った。発問の中で紹介している動画の映像がすばらしくて、その水の美しさに心奪われる。本文に書いてある、家の横を流れる水が、家屋内に引き入れられてそこで食器を洗ったり、残飯を鯉が食べたりしている姿は、洗剤を使ってじゃぶじゃぶ洗っている普段の生活から思い浮かばない光景である。発問①から中心発問にかけて、自然を守り事の大切さに生徒の意見は傾いていく。そこでもう一度、「そもそも人間がいなかったら、水を汚す存在がなくなるんだから、水はきれいになるんじゃない？」と尋ね返してみた。「人間がいるから環境を改善できるんだ」と生徒から返ってきたので、「自然を大切にしなければいけないのは確かにわかるけど、難しくない？」ともう一度質問を返してから感想を書いた。「自分にはできない」という生徒、「できることからすれば・・・」「意識するだけでも違うかも・・・」という生徒、「難しいことでも、針江地区の人は当たり前に行っている。そういう人が増えて、広がっていけば、環境がよくなるのでは？」という生徒、さまざまだったが、各々考えていたように思う。</p>
-----------------	--

